(Ⅳ－85)　事例から見た市民主体によるまちづくりプロセスの分類と課題に関する一考察

足利工業大学工学部　学生員　神津貴志
足利工業大学工学部　正会員　為国孝敏

1．はじめに

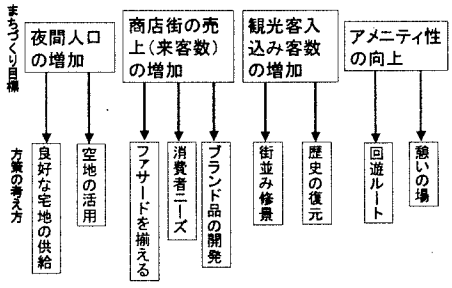
近年、わが国では、まちづくり活動が盛んに行われているが、有効なまちづくり活動は何かについて十分な分析が行われていない。そのため、地域に促したまちづくりの方向性が希薄なままに、安易な活動が増加する懸念もある。

そこで本研究では、各地で行われているまちづくりの事例や手法を収集するとともに、住民意識調査とまちづくりの実践体験調査を行い、まちづくりプロセスについての分析・考察を行うことを目的とする。

2．まちづくり目標の設定と実践体験

まず、活性化の視点からまちづくり目標を設定した。各地の事例収集を分析した結果から、設定したまちづくり目標を達成するために考えられる考え方を図－1に示す。

次に、実践体験を行ったまちづくり活動を表－1に示す。体験結果より、住民が抱くまちづくりに対する期待・不安・不満などが感じられた。こうした住民の意識は、何に起因するのかを分析するために、以下でまちづくりプロセスの分析を行った。



図－1　まちづくり目標の設定

3．まちづくりプロセスの分析

ここでは、桐生市本町一・二丁目で行ったアンケート調査(平成12年11月実施)から住民意識構造の分析(1)、収集した各地の事例からみた分析(2)、まちづくり実践体験から見た分析(3)、をそれぞれ行った。分析結果は以下の通りである。

表－1　参加したまちづくり活動

場所	まちづくり活動名	日時	主催
桐生市	桐生祇園塾	2001.8.2～8.5	本一・本二まちづくりの会
桐生市	本一・本二まちづくりの会会議	随時	本一・本二まちづくりの会
桐生市(二丁目)	桐生祇園神輿担ぎ	2001.8.4	本町二丁目
桐生市	公開教室	2001.11.4	本一・本二まちづくりの会
桐生市	栃木市視察	2001.11.11	本一・本二まちづくりの会
桐生市	まちうちウォッチング	随時	桐生市役所都市計画課
足利市	北仲通りの沿道備品を提案する会	2001.6.30	VAN-NOOGA
足利市	井草大門ワークショップ	2001.7.12	VAN-NOOGA
足利市	学生による織姫神社前活用案の発表会	2001.12.11	VAN-NOOGA

(1)　この地区の生活環境についてどのように感じているかを分析するため主成分分析を行った(有効回答444件　有効回答率71%)。当初、この地区のまちづくりの会会員が193名いることを考慮し、まちづくりに対して意識が高いように思っていたが、分析結果では、総合的に現在の生活環境は普通であるという傾向に集約された。このことは、現在のまちづくり活動に多くの住民が関心を示していない傾向にあることが分かった。

(2)　インターネット上から、歴史・文化を活かしたまちづくりを行っている全国各地の事例を収集した(11件)。分析結果より、まちづくりの手法として、ワークショップや地域の見学会、空き店舗の活用などが多く実施されていることが分かった。

表－2　まちづくり活動の分析

まちづくり活動名	継続性	考察
桐生祇園塾	△	今後継続性を持たせることにより地域に根付く可能性。
本一・本二まちづくりの会会議	○	会議の結果等を公開することにより、住民の意識改革に繋がる。
桐生祇園神輿担ぎ	△	地元住民の祭りに各機関の若い人達を取り巻くことで継続性維持。
公開教室	△	地域住民と、地元商店・教育機関との交流により若い世代の意識向上。
栃木市視察	△	参加者の殆どが、まちづくりの会の役員であったので地域住民の参加啓発。
まちうちウォッチング	○	本来積極的に参加すべき住民が学生に任せてしまう傾向が見られた。
北仲通りの沿道備品を提案する会	○	住民・行政・第三者機関の合意形成を図るために有効的である。
井草大門ワークショップ	×	ワークショップは何回かに分けて行うのだが現在一回しか行っていない。
学生による織姫神社前活用案の発表会	△	学生は、違う角度から物事をとらえているという点で新たな発見がある。

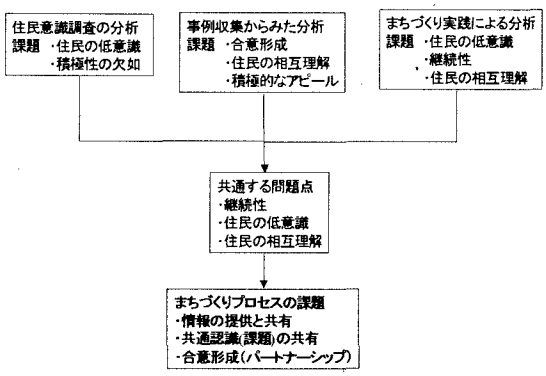
(3)　実践体験調査から活動の継続性を分析した結果を表－2に示す。体験した結果では、まちの活性化を望む人たち(リーダー)の熱意が、住民や一般の市民にまで伝わりきれていないことが感じられた。特に、桐生市で行われた「まちうちウォッチング」では、桐生市役所や本一・本二まちづくりの会の役員は、積極的にまちの活性化を望んでいることが分かったが、住民は積極性に欠けているという結果が得られた。

キーワード：市民参加、まちづくり方策、中心市街地
連絡先：〒326－8558　栃木県足利市大前町268－1(足利工業大学土木工学科)　TEL　0284－62－0605　内線385

以上の分析結果を総合的に判断すると、活動の初期段階で、いかに住民の意欲を啓発させることができるのかが課題として取り上げられる。

4．まちづくりプロセス作成のための課題抽出

各分析から抽出された課題を取りまとめたのが図－２である。この分析結果から、まちづくりプロセスの課題を以下のように考察した。



図－２ まちづくり活動とその方策

①情報の提供と共有

市民の理解が得られていないと、最初から参加していた市民と、参加していない市民との間に衝突が生まれる傾向にあることが分かった。衝突を回避するためにも様々な媒体を利用した情報の提供とまちづくり活動の共有が必要である。

②共通認識(課題)の共有

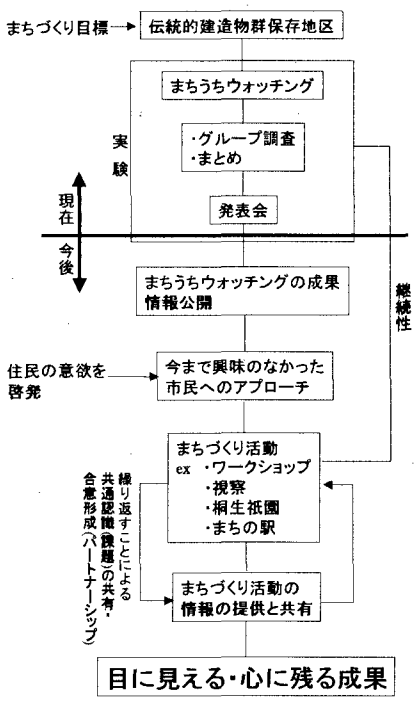
分析結果から、市民に自分達の手でまちづくりを行ったという達成感・期待感を持たせることが重要であるということが得られた。すなわち、意見衝突を回避するため、初期段階もしくはまちづくり活動を行っていく過程の中で、市民相互の共通認識(課題)を共有する必要がある。すなわち、常にまちの作り手が市民の側にあることによって、向上心がまちづくりを円滑に進め、継続性のあるまちづくり活動になっていくと考えられる。

③合意形成

「住民と行政」や「住民同士」が一つの目標を持つことにより、まちづくりプロセスが明確になり、お互いの意見や知識を取り入れたまちづくりが可能となることが分かった。しかし、合意形成は簡単にできるものではないので、学習会や定期的な会議等の機会を多く持つことが必要である。

5．市民参加型まちづくりプロセスの提案

抽出された課題をもとに、桐生市本町一・二丁目における今後のまちづくりプロセスを提案する(図－３)。本町一・二丁目においてはまちづくり目標が最初から明確にはなっていたが、その後の展開が漠然となってしまったため、市民に初期の段階で意識向上させるといった点が、未熟なものとなっている。その遅れを取り戻すためにも今後の展開として、各まちづくり活動を行っていく上で、今まで行ってきたまちづくり活動の内容を継承させた活動を行い、これから興味を持ってもらいたい市民にアプローチを行う必要がある。情報の提供と共有をすることで、これまでの活動に共通の認識が得られ、例え形にはならなくとも、市民の記憶に残る成果が得られ、今後のまちづくりプロセスが明確なものになる。



図－３ 今後のまちづくりプロセス

6．まとめ

全国の市町村で行われているまちづくりに共通していえることは、情報の提供と共有、共通認識(課題)の共有、意識向上の３点が組み込まれないまちづくりには達成感がなく継続性に欠ける。以上の３点が組み込まれると、まちづくりプロセスという長い過程の中に市民の達成感が生まれ、継続性を持たせることができるということである。今後のまちづくりプロセスに必要なことは、現在のまちづくりリーダー達が、どれだけ興味のない人を取り入れるかである。

謝辞：本研究を進めるにあたり、ご協力いただいた桐生市役所都市計画課、及び桐生市本一・本二まちづくりの会、さらに足利工業大学土木工学科交通計画研究室の宗形正行氏に、心より感謝の意を表します。